

あの日本初演の感動をふたたび!



ペルゴレージ 歌劇 オリンピーアデ

11/3 金祝・5日
15:00開演



2015年10月に開館20周年を記念して開催された「ペルゴレージの歌劇『オリンピーアデ』」再演を望む多くの声にお応えして、この秋上演が決定しました。

舞台は古代ギリシャ。オリンピク競技にあたり、僭主クリステネが褒賞として勝者に娘アリステアをめとらせることを決めます。この娘と、出生の秘密を抱える王子リーチャ、リーチャの盟友メガークレ、リーチャに思いを寄せるアルジェネの4人の友情や愛憎が交錯するなかで、物語は進んでいきます。家族愛、友情、恋慕、愛、忠誠など、さまざまな人間模様と感情が描きだされる「オリンピーアデ」は、60人を超える作曲家によりオペラ化され、人気台本作家のメタスタジオが書いた数ある台本のなかでも特に人気の作品でした。

本作が作曲された18世紀イタリアでは、技巧的な歌唱と声の強さを併せ持ったカストラート(少年期の去勢により変声を経っていない男性歌手)がオペラのスターでした。ペルゴレージは、当時大人気となったこの台本に基づいて、合唱を省き、2組の男女を演じるカストラート歌手たちを中心に、主役級の5人以外の役にも聴きごたえのあるアリアを追加して、当時のスターたちがアリアを歌合

戦のように披露するオペラに仕立てています。

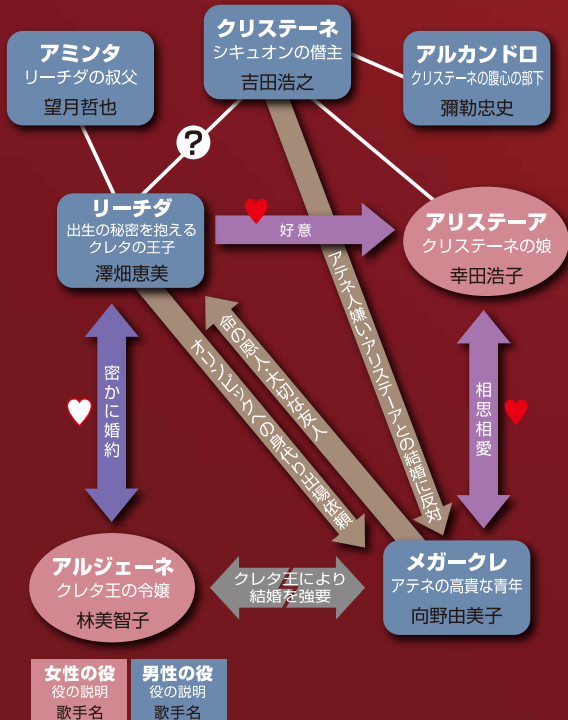
紀尾井ホールの日初演では、日本のオペラシーンを牽引するスター7人が、それぞれ個性が光る名演技と優れた歌唱で、ストーリーとともに声の競演を楽しませてくれました。そして登場人物の心の動きを繊細かつ明晰に描き出す粟國淳の演出と、イタリア・バロックの明るく澄んだ響きを作り上げる河原忠之の指揮が相まった質の高い公演に、朝日新聞(「バロック歌劇の未来を照らす」)2015年10月19日夕刊、毎日新聞(「見事な舞台に拍手」)同年11月10日)や各音楽誌のみならず、英国のオペラ専門誌「Opera」2016年3月号でのレポートなど、内外で絶賛されました。

今回もキャストと指揮・演出はそのままに、前回涙を呑んでカットした魅力的なアリアをいくつか復活させ追加する予定です(詳細調整中)。2年の熟成の時を経て、さらに個々のキャストの魅力が輝くものとなるでしょう。



河原忠之(指揮) 粟國 淳(演出)

「オリンピーアデ」人物相関図



女性の役 役の説明 歌手名
男性の役 役の説明 歌手名